

総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会  
次世代電力・ガス事業基盤構築小委員会  
中長期取引市場検討ワーキンググループの設置について

- 電力システム改革が進められる中で、卸電力取引所の短期スポット市場における取引は大きく拡大し、総電力需要の約3割程度に達している。一方で、スポット市場価格は燃料費や電力需給状況の変動の影響を受けやすく、価格変動リスクが高い構造にある。そのため、多数の小売電気事業者が電力の調達をスポット市場からの調達に依存する状況下では、例えば国際的な燃料価格の高騰等が生じた場合などの電気料金の急激な変動局面において国民経済に大きな影響が生じうる。
- こうした課題を踏まえて、小売電気事業者による供給力の調達手段や電源調達のポートフォリオを多様化するとともに、需要家に安定的な価格水準・変動幅での電力供給を実現することができるよう、中長期の卸電力取引を活性化することが重要である。
- 本年3月に公表された「電力システム改革の検証を踏まえた制度設計WGとりまとめ」では、広く参照可能で適正かつ安定的な電力価格指標の形成に資するような中長期の電力取引の活性化を図ることにより、①小売電気事業者による中長期での供給力の安定的な調達が期待されるとともに、②発電事業者による電源投資や燃料調達に係る予見可能性の向上に資することになること、ひいては、これらを通じて、安定的な価格水準・変動幅での電力供給の実現を図ることを目指すこととされた。また、「広く参照可能で適正かつ安定的な電力価格指標の形成」と、今後、量的な供給力確保が求められる小売電気事業者による中長期での供給力の安定的な調達の観点から、電力の中長期的な取引所取引を実施するための中長期取引市場を整備することの必要性が示された。
- さらに、中長期取引市場の導入に向けて、取り扱う商品、価格・市場監視の考え方、供出量を高める方策、約定方式、運営主体等について、基本的な考え方が整理された。
- 上記を踏まえ、中長期取引市場の導入に向けた詳細設計や残存する各論点について、具体的な検討を行うため、電力・ガス事業分科会次世代電力・ガス事業基盤構築小委員会の下に「中長期取引市場検討ワーキンググループ」を設置する。